

CODE LETTER

Citizens towards Overseas Disaster
Emergency

2024.12. 27 Vol.76

写真：阪神・淡路大震災直後、長田を歩くボランティア達

Contents

- ▶巻頭言
「阪神淡路大震災から30年」・・・1
- ▶特集
令和6年(2024年)9月能登半島豪雨
から3カ月・・・・・・・・・・2
- ▶プロジェクトレポート
台風ヤギ・・・・・・・・・・6
ウクライナ（料理会・野菜便）・・・7
- ▶CODE未来基金NEWS
インターン生の紹介、若者会議・・・8
CODEプロジェクト勉強会・・・9
- ▶イベントレポート
足湯交流会・・・・・・・・・・10
イベント告知・・・・・・・・・・12
- ▶スタッフ活動記録・・・・・・・・・・13
- ▶会員・寄付者ご芳名・・・・・・・・14
- ▶活動へのご協力のお願い・・・・・・・・16

巻頭言「阪神・淡路大震災から30年」

この1月で、阪神・淡路大震災から30年を迎える。この30年を迎えるにあたって、改めて大震災が私たちの社会に何をもたらしたのかを問いかけたい。

災害は、その悲しい被害と引き換えに、その時代や社会の抱える歪みを顕在化する。阪神・淡路大震災は、戦後50年の節目に発生したが、その50年間の歩みが適切であったかどうかを、私たちに問いかけた。自然を破壊し、経済を優先し、地方を踏み台にして発展してきた現代都市が、いかに脆弱だったかを気付かせた。

その中で、誰一人取り残さない社会、格差や差別のない社会、お互いに助け合う社会、自然との共生を目指す社会、人間発達を保障する社会を構築すること、そして何よりも、市民が主人公となる社会を構築することが、21世紀の課題として私たちに突きつけられた。30年後の検証にあたって、これらの社会変革の課題にどう応えてきたかが問われている。

阪神・淡路大震災の後、被災者の支援や被災地の再生の中で、様々な市民運動が立ち上がった。人間復興を目指す取り組み、市民主体を目指す取り組み、共存共栄を目指す取り組みが、震災後で大きく花開いた。その市民運動の高まりを受けて、3年後にNPO法が成立している。NGOなどの市民団体が自由に社会創造に挑戦する道が開かれた。

ところで、こうした社会変革の取り組みや市民運動が主流化し、社会文化とした定着しているかいうとそうではない。能登地震の被災とそこからの復興の過程をみると、被災地と被災者に支援の手が届かないという厳しい現実がある。阪神・淡路で開花した市民活動がその後の栄養補給が叶わず枯れかかっているのだ。

だからこそ、30年前の初心に返らなければならない。踏み外した市民主体の歴史の流れを取り戻さなければならない。今一度、能登半島地震からの復興をその転機にしなければならない。災害の時代を迎えた今こそ、阪神・淡路で芽生えた市民運動と社会変革の取り組みの再構築と軌道修正を、能登の支援を起点にはからなければならない。社会変革のバトンをしっかりと能登に繋げなければならない。

この振り返りと再出発は、阪神・淡路大震災の市民運動の高揚の中で生まれた、私たちCODE海外災害援助市民センターにも求められる。与える支援だけでなく引き出す支援に心掛けるという初心に立ち戻り、支援文化や減災文化を世界に広げるために、もう一回り大きな力を尽くさなければならない。阪神・淡路30年を、CODEの新たな起点にしたい。

（CODE海外災害援助市民センター代表理事／神戸大学名誉教授 室崎益輝）

写真：活動時の様子（石川県輪島市河原田町）



令和6年(2024年) 能登半島地震・奥能登豪雨

9月20日、再び能登を襲った豪雨。CODEは被災地NGO協働センターや他のボランティアたちと共に、2007年から毎年参加している七尾市中島町でのお熊甲祭りへと参加していました。災害発生後、奥能登では再び断水、停電や集落の孤立が発生し、仮設住宅や家屋への土砂の流入により再度避難生活を送られている方々もいます。両団体のスタッフは被災直後からこれまでやさしや足湯隊が足湯ボランティア活動をしていた場所やつながりのある地域を訪れ、他の団体やボランティアの方々と共に支援活動を行ってきました。

本特集では現場で活躍する方々からのレポートや、被災地を訪れた中国NGOの方々からのご意見を掲載しています。

被害概要

市	人的被害	家屋被害
輪島市	死者11名、負傷者35名	全壊99棟、半壊523棟、一部破損81棟、床上浸水39棟、床下浸水520棟
珠洲市	死者3名、負傷者9名	全壊14棟、半壊61棟、一部破損7棟、床上浸水14棟、床下浸水185棟
能登町	死者2名、負傷者5名	半壊5棟、一部破損30棟、床上浸水218棟
合計	死者16名、負傷者47名	1800棟

支援内容

- ・被災地NGO協働センターへの派遣活動
水害直後からやさしや足湯隊として、泥出しや家屋の片付けを中心とした被災地NGO協働センターの活動へとボランティアを派遣してきました。
9月27日～29日の第一次水害ボランティア以降、CODEは計7回63名派遣してきました。
- ・避難所での足湯ボランティア
やさしや足湯隊では輪島中学校、宅田第一団地、大屋小学校、河原田公民館、個人のお宅にて足湯ボランティアを行っています。
被災地NGO協働センターと連携し、冬服や布団の提供も仮設住宅や避難所にて行ってきました。

現場スタッフからのレポート

被災地NGO協働センター 能登支援事務所責任者 増島智子

1995年阪神淡路大震災でボランティアに参加、その後「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」（現：被災地NGO協働センター）に関わり、「まけないぞう」事業を主に担当してきた。能登では事務所責任者として活動中。



1月1日に発生した能登半島地震から11ヶ月が過ぎました。年の瀬を迎え、心がなんとなくざわざわしています。「お正月をどう過ごすか?」「また地震がきたらどうしよう?」「お正月はここに居たくない!」

いろいろな気持ちが入り混じります。思い返せば、新年を迎えた元旦多くの人が新しい年を喜び、ほろ酔い気分で過ごしていました。その瞬間に緊急地震速報がけたたましく部屋中に鳴り響き、テレビの向こう側に能登半島を襲った地震のニュースが流れたのです。

そして、私たちは翌2日にCODEの吉椿事務局長と当センターの村井顧問が先遣隊として、すぐさま七尾市中島町小牧地区に緊急救援物資を届けました。そして5日に先遣隊の報告を受け、野菜やお米などの食品、携行缶、発電機などを積み込み、CODEのスタッフ山村と私が現地に走り、避難所の環境改善や物資の調達に翻弄しました。当時はまだ雪深く各地で道路が寸断され、渋滞が起こり、移動だけで半日はかかる状態でした。珠洲への道は当時は一本しかない状態で、電波もなく携帯の地図も見ることができない状況で、紙の地図を頼りにしていました。あらためて、当たり前の日常に感謝しました。

七尾市では、災害廃棄物となった書籍でも災害ごみの仮置き場に出すことができず、可燃ゴミですら通常のゴミの日のルールに従って出さなければなりません。さらに災害ごみの仮置き場は、和倉温泉の近くで小牧地区からは酷い渋滞で一日一回行ければいいほうでした。

それで小牧と隣の地区の外（そで）の住民さんに限り、地元の人に空家を借りて、仮置き場を作ってそこへ一旦家財を搬出してから住民さんの有志が和倉の仮置き場に運ぶという方法をとっていたのです。



いまだに、七尾市では災害ごみでも一部「有料」です。当時は災害救助法に基づいて避難所に配布されるべきお弁当すら出ていませんでした。地元の人々が持ち寄った食材や足らずの食材を避難者がお金を出し合って購入したり、被災した地元の一つ星レストランの方やボランティアが炊き出しをしていたのです。本来であれば、災害時は炊き出しに関する食材費、人件費なども国のお金で賄えるはずですが、被災者自らにしわ寄せがいていました。これだけ災害が相次ぐ中で、それぞれの自治体には他人事ではなく、自分事としてとらえて、災害時の施策を有効活用してもらいたいです。そして、現在も公費解体に伴う家財の搬出や仮設での見守り支援なども行っています。

そして今年の秋、小牧では恒例行事の9月20日のお熊甲祭りが行われる予定でした。今年はボランティアに参加した人たちが総勢100名ほどが現地に駆けつけてくれました。しかし、残念ながら豪雨により中止となり、翌日から小牧で豪雨で被災した家屋の支援活動がはじまり、現在は輪島市で水害支援活動にあたっています。

地震と豪雨の複合災害に見舞われた被災地では、被災者のみなさんの心が折れています。せっかく前に進もうと思っていた矢先の出来事で、復旧活動に水を差した形となり、暮らしの再建に一層の遅れが生じています。

1年が経とうとする被災地は少しずつ公費解体が始まっていますが、いまだ倒れかけた家屋が点在しています。再建への道筋は見えないまま、不安な新年を迎えようとしています。あらためて能登に関心を持って頂ければ、被災者の支援の一助となります。



その約2週間後小牧集会所を住民さんのご厚意で貸していただき、現地に駆けつけてくれた佐賀県の一般社団法人おもやいのメンバーが物資配布所や拠点として使えるように環境整備してくれました。当センターは小牧集会所を拠点として、民間版のボランティアセンターとして活動をスタートしました。小牧地区では行政書士の住民さんが、罹災証明を取りまとめて市役所へ代行手続きに行ったり、アンケートを配布し、住民さんからのボランティアニーズを拾っていました。それを元に私たちは活動を開始し、それから徐々にボランティアのニーズは広がりました。友人・知人など七尾市だけでなく、志賀町・穴水町・能登町などたくさんの方からのご依頼がありました。

当初は、奥ゆかしい能登の人たちの人柄で、家屋内の片付けにはなかなか入らせてもらえませんでした。地元の方のキーワードで「段取り」という言葉があり、「ボランティアさんが来るまでに家の中をあらかじめ片付け、ボランティアが入りやすいようにする」というもので信頼関係を構築するまで時間がかかりました。最初は1週間程度、雪の降る中外に落ちているガラスや瓦を拾いました。そして、やっと一部屋だけ1万冊といわれる書籍が散らばっていたのを少しずつ整理整頓して片付けました。そして、そのうちにだんだんと心を開いてくれて、ボランティアを心よく受け入れ、雨の日バージョンと晴れの日バージョンで受け入れ準備までしてくださり、いまでは留守宅でも入れるようになりました。





若者ボランティアの活動

能登半島地震・豪雨災害の被災地では、多くの学生・若者が当団体、被災地NGO協働センター、やさしや足湯隊等と一緒に活躍して下さっています。

若者のちからを活かしながら、それぞれができることに取り組む彼・彼女達のおかげで被災された方々が少しずつ前を向けたり、被災地に笑顔がこぼれることも。

今回は、そんな現地での作業を率いる南太賀さん(兵庫県立大学院)からのレポートを紹介します。



若者からみた被災地

被災地NGO協働センター 学生スタッフ 兵庫県立大学大学院減災復興制作研究所 南太賀

令和4年8月豪雨の石川県小松市で被災地NGO協働センターに初めてボランティアとして参加し、それから令和4年台風15号の静岡市、令和5年7月大雨の久留米市でボランティア活動を経験されてきました。

2024年3月に大分大学工学部卒業後、兵庫県立大学減災復興政策研究科に入学し、4月から被災地NGO協働センター学生スタッフとして能登半島地震・能登半島豪雨の被災地で活動されています。

能登半島では2024年1月1日の大地震が発生してから、6月と11月に5強と5弱の大きな地震を観測しただけでなく、9月に大規模な豪雨災害が能登半島を襲いました。3月から現地で活動している私にとっては、復旧工事や公費解体によって景色が変わり、休業を余儀なくされていたお店が再開するなどまちが動き出そうとしていた段階での豪雨災害で、まだまだこれからという中で地震の揺れに不安を感じながら、豪雨被害で被災した住民さん方のショックは計り知れないものだと感じました。

私はこれまで「やさしや足湯隊」の活動で繋がっていた住民さんなどを尋ねるべく、9月23日に輪島市内に入りました。まちは泥にまみれ、道路沿いでは多くの住民さんが疲労困憊といった表情でひたすら泥水に浸かった家財を外へ搬出していました。尋ねた住民の方々のお宅も床上浸水により、ひどい状況となっており、『もう最悪や、どうしたらいいかわからん。』『地震よりもひどいよ。』『もう心折れた。』『もうこんな所、人がいなくなるよ。本当に。』と絶望のつぶやきが聞こえてきました。地震災害に次ぐ豪雨災害で混乱し、怒りや不安を私にぶつけられるような感覚でした。

それから、被災地NGO協働センターでは数十件の豪雨被害を受けたお宅に入り、家財搬出から土砂の掻き出しなど、自宅の復旧のお手伝いをさせていただいています。

私も継続してお手伝いをさせていただいていますが、家の復旧が進むと同時に『出会えてよかったわぁ。』などと豪雨災害直後には見られなかった表情や聞くことのなかったポジティブなつぶやきが聞こえるようになりました。さらには気軽に話しかけてもらえるようになり、差し入れをしてくれるなど、継続して関わるのができたからこそその支援や変化の気づき、得られた信頼関係がありました。ですが、我々がこのようにお手伝いがすることができたのは能登半島で被災された住民さんの一部です。被災された方々の状況や思いはバラバラで、まだまだ苦しい状況に残された住民の方々も多くいます。

地震から1年が経過しようとする中で、まずは普段の生活を取り戻すべき段階です。その段階を乗り越えてから復興について話し合っていく必要があります。長期的な支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(南太賀)

防災減災国際交流団が中国から来日しました!

2008年の中国四川大地震以降、CODEと連携してきたNGO備災センターの張国遠さんは現在、中国災害防御協会(北京)で国の仕事として防災・減災に取り組んでいます。

能登半島地震の発生後、幾度となく能登の被災地に行きたいと連絡をいただきましたが、11月によりやく実現することができました。これまでも連携してきた渥美公秀大阪大学大学院教授と共に中国の防災減災国際交流団(8名)の訪日事業を調整してきました。



大阪では室崎益輝CODE代表理事にもボランティアや防災士についての講義、大阪大学でも渥美教授や吉椿(CODE事務局長)の能登半島での活動報告も行いました。その後、能登の被災地の輪島や七尾市中島町などを訪問し、被災地の状況を視察しました。

地震と豪雨で被災した輪島の惨状を見て、「なんでこんなに復興が遅いんだ・・・」と参加者は口々に語っていました。また、家屋の泥だしなどを行うボランティアの姿を見て、ボランティアへの敬服と同時に民間が泥だしを行っている日本特有の状況に疑問を呈していました。その後、七尾市中島町では姉妹団体の被災地NGO協働センターの常駐スタッフの増島智子さんに被災の状況を講義いただき、金沢では田中純一北陸学院大学教授と学生さんたちからも能登での現状とボランティア活動の様子を伺いました。訪日団の代表の張国遠さんは、日本の大学生などが積極的に能登の被災地にボランティアを行っている姿を見て、「とても羨ましい。中国ではボランティアやNGOなどの活動に関心のある若者がとても少ない。このままでは自分たちの世代で途絶えてしまう。次世代に継承しないと・・・」とこぼしていました。

来年1月17日、阪神淡路大震災から30年を迎えます。張さんは別れ際、中国の防災関係者は1.17にも再度日本を訪問し、これからも相互に学びあっていきたいと熱く語っていました。

(CODE事務局長 吉椿雅道)



今後の活動について

課題

- (1) 二重被災で心が折れた人たちが多い
- (2) 二重被災の場合の再建はどのように?
- (3) 柔軟な制度運用が求められる

復興に向けた取り組み

- (1) 度重なる災害で、復興の姿が見えない
- (2) 住民の声と行政の計画との乖離

今後の支援

・継続したボランティア活動

・復興に向けた取り組み

復興のためのキーパーソンとの会議、復興に取り組む「ちょっとした」活動の応援、先進地域の見学ツアーなど

*引き続き、CODEは被災地NGO協働センターと連携して活動を行います。

(資料参考: 被災地NGO協働センター 代表 頼政良太)



ウクライナ 避難民支援

CODEは2024年10月からMOTTINAIやさい便を再開しました。現在MOTTINAIやさい便は月1回、子守ボランティアは週1回行われ、11月16日にはウクライナ料理会を開催しました。

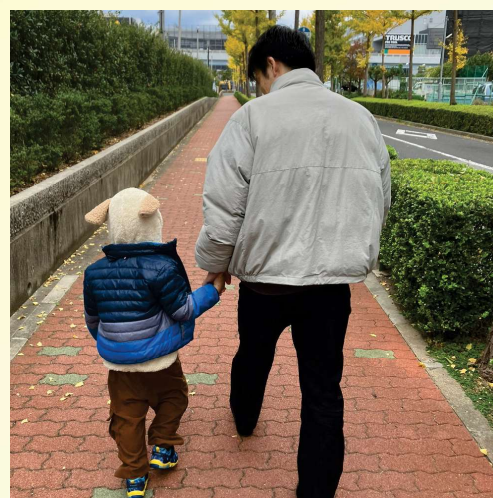
MOTTINAIやさい便

「MOTTINAIやさい便」では新鮮な有機野菜を提供し、日本での生活の困りごとに対応しています。現在は月に1回、27家庭へと野菜便を配達しています。久しぶりの野菜便では「久しぶり〜、ありがとう!」「今、毎日日本語をオンラインで勉強しているの。4時からウクライナの仕事をしています。」など、顔の見えるつながりから、今の生活についてのお話を聴いています。

子守ボランティア

「子守ボランティア」では学生がウクライナの方々のお子さんの子守を通して、親とくに母子の子育てサポートをしています。現在は1家庭で子守ボランティアを継続中です。

〈学生ボランティアさんの感想〉
今回は学生2人で約4時間の対応でした。勿論とても楽しかったですが、元気いっぱい子どもさんについていくのは大変です。そして「いつもはお母さん1人なんだ」と、ふと感じました。本当なら一緒に子育てをして、子どもの成長を見届ける人がいるのに、その当たり前を侵攻によって妨げられている。早くあるべき当たり前に戻れたらいいなと心から思いました。そして、その当たり前の日が来るまで、私達はこの現状を知り続け、アプローチしていかなければならないとも感じました。(神戸学院大学 安福瑞樹)



ウクライナ料理会

11月16日にポートアイランドにてウクライナ料理会を開催しました。当日は港島コミュニティセンターにてウクライナのOIさんから料理「ボルシチ」と「プリンチキ」を教えてもらいながら、地域の方々と一緒に調理しました。学生ボランティアさんは集まった子ども達と楽しく遊んでくれました。

調理中はウクライナ語・ロシア語のみ話される方も料理の手振りや見本を見せながら、交流。その後「見たことがあります、同じ棟に住んでいたんですね」とGoogle翻訳を使ってお互いに会話をされているのが印象的でした。

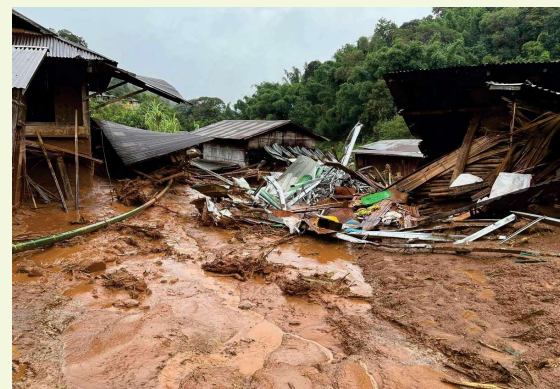
〈参加者感想〉
海外の作ったことがないお料理を知ることができ、またウクライナの方々と交流できとても楽しかったです。身近に住んでいる方々がいるのに、接点がなかったため、このような交流会に参加できて良かったです。何か出来ることがあれば携わりたいという気持ちにもなりました。ありがとうございました。

台風ヤギ

2024年9月2日にフィリピン東部で発生した台風ヤギ(11号)は、その後、進路を東へ取り、東南アジア諸国や中国で大きな被害を出しました。被害の概要は以下の通りです。



国	被災地	人的被害	家屋被害
ミャンマー	中部ネピドー（首都）、マンダレー、カヤー州、北東部シャン州など9州	死者384人、行方不明89人 被災者88万7000人以上	浸水：約16万戸 全壊：2,116戸
ベトナム	ハノイ（首都）、ラオカイ省、チェンバイ省、クアンニン省、ハイフォン市など26の省	死者291人、行方不明57人、 負傷者1921人	約25万7000戸
タイ	チェンライ県、チェンマイ県	死者42人	約2万7000戸
フィリピン		死者21人、行方不明26人	4万7000棟以上
ラオス		死者4人	
中国	海南島	死者3人、負傷者95人	
合計		死者745人、行方不明153人	約47万1000戸



ミャンマーの状況

ミャンマー被災地では、約330万Haが浸水被害を受け、そのうち約30万Haの農作物が被害を受け、約120万人が緊急的な食糧支援を必要としています。
ミャンマーでは、2021年2月、国軍によるクーデターが起き、抗議活動（市民不服従運動）を行う市民に対して国軍が弾圧を今も続けています。その犠牲は5000人を超えたと現地の人権団体が報告しています。この台風の被災地シャン州は、国軍と少数民族の激しい戦闘地域でもあります。



CODEの支援

CODEは、台風発生後、ベトナムやミャンマーなどの情報を現地関係者や国連人道問題調整事務所（UNICHA）などから収集し、情報発信をしてきました。東南アジア各国の被害が甚大な事から支援を開始しました。CODEは姉妹団体である被災地NGO協働センターと共にミャンマー難民支援を行っているNPO法人PEACE（東京）とAUN（在日ビルマ連邦少数民族協議会）を通じて、被災地の少数民族支援の女性団体「タアン女性機構（Ta'ang Women's Organization:TWO）」を支援することを決定しました。TWOを通じて、少数民族の多く住む被災地に救援物資の提供を行っています。CODEは、信頼できる現地の団体を通じて、支援の届き難い少数民族エリアの被災者を支えます。

CODE未来基金 NEWS

インターン生の紹介

能登半島地震支援での足湯ボランティアをきっかけに9月からCODEのインターン生が一名入りました。



安福 瑞希 神戸学院大学
現代社会学部 社会防災学科 3年生

9月からCODEの学生インターンとして活動させていただいている安福です。CODEに関わったきっかけは、2024年元日に発生した能登半島地震による「やさしや足湯隊」です。10分という短い時間で1人1人の手を取り、深く向き合うことができる足湯ボランティアに興味を持ちました。

インターンとしてCODEに入って3か月、日々の活動を通してNGOの役割や意味、意義を学んでいます。特に海外支援のプロジェクト勉強会やウクライナの子守りボランティアで海外の災害についても目を向けることで、日本で起きた「災害」も海外で起きた「災害」もなんら変わりなく、支援に優劣などないことを実感しています。どうしても日本の災害に目を向けがちですが、30年前神戸を助けてくれた「世界」に恩返しする気持ちを持ってこれからも活動していきたいと思います。

若者会議



今回、インターン生が中心となり、「若者会議」というイベントを企画、開催しました。「若者会議」とは、阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、震災を経験していない若者同士が日常生活から生まれる不安や不満を共有、語り合いながら社会について考える会です。参加者は阪神・淡路大震災以降に生まれた30歳以下の若者限定で募集を行いました。若者ならではの社会に対する不安や不満を聞くことにこだわったことにより様々な不安や不満が出てきました。参加者からは、「どうしても上の世代の人を気にしながら活動をしている。」「活動が続いていくにはお金って大切だね。」「変わることも大切だけど、変わらない大切さもあるよね。」「世間を気にしながら活動するのが難しい。」などの声が沢山あがります。参加者の各々の専門分野からの視点や「やさしや足湯隊」のボランティアを通じて感じた話も沢山あがりました。そして、2025年1月16日に「若者会議」は最終回となります。11月と12月の計3回の会議で出てきた不安・不満を大人の方と話し合い、一緒に未来について考える機会にしたいと考えています。現代を生きる若者が抱える不安や不満を少しでも一緒に解決し、社会の「本来あるべき姿」に近づく話し合いを行っていききたいと思います。



第1回若者会議の様子(11月12日)

プロジェクト勉強会 感想

インドネシア

私が今回のプロジェクト勉強会で特に印象に残った国の一つがインドネシアです。2018年9月28日インドネシア・スラウェシ島ではM7.5の地震が発生しました。ペトポというまちでは大地ごと液状化するという被害があり、住民は生きていく場所さえも奪われました。そこでCODEが行った支援は伝統的な家屋「Tambi」の仮設住宅支援です。外部から資源や技術を持ち込むのではなく、現地にある文化と自然を活かした「エコアプローチ」が行われ、仮設住宅の建設が進められました。

このプロジェクトから学んだことが2つあり、1つ目が現地の文化や自然を活かした復興を進めていくことで地元住民の内発性を育むということです。単なる一方的な支援ではなく、自分たちがこれからのまちを作っていくための支援だということを認識してもらうことで、復興を長い目で見れるということを学びました。

2つ目は資金調達の難しさです。2018年は日本でも西日本豪雨が発生し、日本の世間の関心は一気に国内へと向きました。国内と海外を比べ、どちらかではなく「どちらも」を支援する必要があるなかで金銭的な難しさもあったということを知り、NGOだからこそできる支援の姿勢を学びました。

(CODE学生インターン/神戸学院大学現代社会学部社会防災学科2年 岩尾正貴)

ハイチ

私がプロジェクト勉強の中で最も印象に残った国はハイチです。

CODEに関わったのは2010年ハイチ大地震の頃、西半球で最も貧しい国であるこの国に対して災害は貧困問題を露呈させました。CODEのプロジェクトの1つに現地NGO「GEDDH」と共に行った農業技術学校の建設があります。「なぜ復興支援に農業支援？」と思われるかもしれませんが。ですがこの国に深く根付く貧困問題を根本から解決するためには、現地の人々が農業技術を取得して食べる能力を身につけることがまず必要と判断したためです。

このプロジェクトから、復興支援とはその時のニーズのみに対応するのではなく、災害によって露呈された元々ある地域の問題を解決する「先を見据えた支援」を行う必要があることを学びました。まさにCODE代表理事である室崎先生の『災害の復興は、立て直しだけでなく、世直しでなくてはならない』にハイチは当てはまると感じます。まず私ができること「一人一人の声に耳を傾け、根本の問題を知る」ことから始めたいと思います。(CODE学生インターン/神戸学院大学現代社会学部社会防災学科3年 安福瑞希)

ネパール

自分がこの勉強会で気になった国はネパールです。

2015年に起きたネパール地震で、CODEは住宅再建の支援を行なった事を学びました。東部では国際的な支援活動を受けていたことから、「最後のひとりまで」の理念を掲げるCODEは支援があまり届いていなかった、西部に支援を行なったことがまず勉強になりました。アクセスが悪いから支援をしないのではなく、困っている人がいれば支援を行うことはNGOだから出来る支援のあり方なのかなと感じました。支援内容として、耐震性のある住宅のモデルハウスを作る事を学びました。家を作るのではなく、モデルハウスを作る支援にとっても驚きました。やはり、住宅支援と聞いたら家を作るイメージがあるからです。モデルハウスを地元の人と作ることで、帰国後も住民の手で家を作ることが出来ると感じました。吉椿さんがよく仰っている「国際協力とは、魚を与えるのではなく、釣り方を教えること。」という言葉に初めて感じさせられた支援内容でした。

(CODE学生インターン/神戸学院大学現代社会学部社会防災学科2年 玉地紘樹)

やさしや足湯隊交流会



2024年1月1日午後16時10分に石川県能登地方で震度7の地震が発生しました。「被災地NGO協働センター」「CODE海外災害援助市民センター」が連携して結成した足湯ボランティア「やさしや足湯隊」は現在、先遣隊～第24次隊（のべ219名）までが活動しております。能登半島では復興への歩みを進めていた途中、9月21日に豪雨被害をもたらしました。これからも継続して能登半島に寄り添った支援が必要です。

今後の復興を考える上で足湯ボランティアの意義や拾った「つぶやき」の意味を、みんなで考える機会を設けたいと思い、11月30日に神戸まちづくり会館にて「やさしや足湯隊」交流会を開催しました。オンラインと対面合わせて30人以上の方に申し込んでいただき、これまで足湯ボランティアに参加したことがない方から、何度も能登に足を運んでいらっしゃる方まで、幅広く交流することができました。

内容としては二部構成で、まず一部に被災地NGO協働センター代表の頼政さんから、能登半島地震と豪雨の現状と、今後の復興に向けてお話しいただきました。二部では、CODE事務局長の吉椿さんから、足湯ボランティアの意義や変遷についてお話いただき、その話を踏まえて各グループに別れて、足湯ボランティアをして感じた事、疑問に思ったこと、課題点、印象に残った「つぶやき」などについてディスカッションを行いました。

開催概要

日時：2024年11月30日（日）14:00～17:00
場所：こうべまちづくり会館
参加者：約30名(オンラインと対面の両方を含む)
内容：

◎第一部

頼政良太（被災地NGO協働センター 代表）
・能登半島地震、豪雨の今の現状、課題
・被災地NGO協働センターの支援活動報告

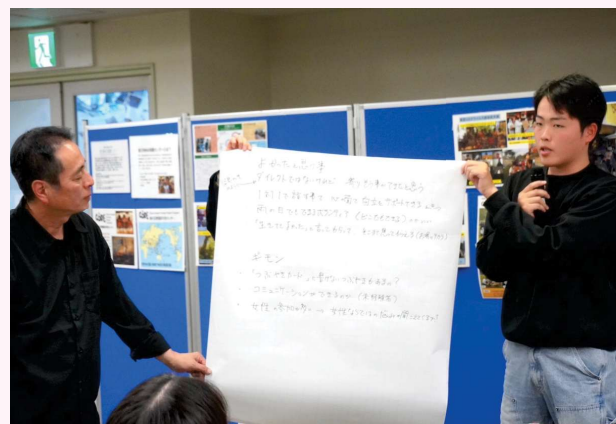
◎第二部

吉椿雅道（CODE海外災害援助市民センター 事務局長）
・足湯ボランティアの起源、意義、変遷

・グループ、全体ディスカッション

島村優希（CODE学生スタッフ/大阪大学 大学院）
南太賀（協働センター学生スタッフ/兵庫県立大学 大学院）
・「つぶやき」の分析

主催：被災地NGO協働センター
CODE海外災害援助市民センター



参加者の声



・今回の交流会を通して、改めて能登の現状や支援の意味、足湯の意義について勉強できてよかった。普段行っている活動の原点について知ったことで、これからより深みのある活動ができると感じた。

特に印象に残った内容はつぶやきの質的分析である。自分たちが能登に行き、被災された方のお話を耳を傾ける、それだけでも意味のある活動になっていることを分析結果から知ることができた。多くの人にこの分析について知って欲しいと思った。（20代女性）

・足湯ボランティアは、被災者との出会いを作り、つぶやきに傾聴するだけでも価値があること（冷え込んだ心を温める）、その繋がりが復興復興へ向かう気持ちのきっかけとなること、また、足湯ボランティアに参加した学生さんの「被災者からとても感謝され、世界観が広がった」などの発言が印象に残りました。（40代男性）

「つぶやき」の紹介

・輪島の町は凄くキレイだったから地震の起こる前に来て欲しかった。海の砂波も、家もなくなってしまって、これからどうしていけばいいの。
（2024/2/21 60代女性 輪島市高校体育館）

・災害があつてから毎日が何もできないまま過ぎていく。家の片付けもできていないし、毎日何もしていないできてない。食事つくって、掃除して毎日あつという間に過ぎていく。むくみもひどくて足湯で少し楽になった。
（2024/2/27 40代男性 七尾市西岸コミュニティセンター）

・なんでこんな不便なとこに住み続けるのかって思われるけど、やっぱりそれだけの魅力あるんですわ。患も多いし。間垣は観光のために伝統的なものを残してるって思われるけど、本当に必要なんです。
（2024/6/1 60代男性 輪島上大沢集会所）

・地震があつてこんな生活になるんだつたら生きてこなかったらよかったって思っていたの。でも全国から沢山のボランティアさんに支えられて、足湯ボランティアにも出会えて生きていてよかったわ。
（2024/6/8 60代女性 珠洲三崎公民館）

・一回金沢の親戚の家に1ヶ月住んだんだけどね、やることはないし人の家だから落ち着かないで帰ってきたの。どれだけ不便でもやっぱりこっちがいいなあ。
（2024/8/2 70代女性 珠洲市みさき小学校三崎町第一団地仮設住宅）

・地震がないのが一番だけど、地震が起きて全国から応援に集まって繋がりができたのが本当に嬉しいです。自分もどこかで災害が起きたらボランティアに行きたいなって考えています。
（2024/9/4 70代女性 穴水町七海屋）

・生まれてからずっと能登に住んどうよ。半年間都会の方におつたんやけど、最近やっところちに戻ってこれたんよ。向こうはやることがないから1日が長うて長うて。ここにいれば山もあるし海もあるしなあ。
（2024/9/15 80代女性 馬縹 自然休養村センター）

・地震やら水害やらの罹災証明なんか手続きがややこしいわからんから大変や。
（2024/10/13 70代男性 輪島市お宅）

・震災で自宅全壊。金沢の2次避難所にて、7月に輪島市の仮設住宅入居。9月の豪雨で胸までの高さの浸水。再び避難所生活に。住んでいた仮設住宅修理は年末までかかり、それまで避難所生活。
（2024/10/27 80代女性 輪島中学校 避難所）

・足怪我したんよー、大丈夫かなー。まな板を落としてしまって。仮設の台所は、いつもまな板を置くところがせまくて、落としてしまうんよ。
（2024/12/7 70代女性 輪島市宅田第一仮設住宅）



「やさしや足湯隊」交流会の目的に、これまで24回能登半島を訪れた中で、もう一度みんなで足湯ボランティアの意義や一つ一つの目の前の人が語った「つぶやき」の意味などを考え、深掘りをしていくことができました。したがって、今回はグループディスカッションや全体ディスカッションなどの時間をできる限り多くとりました。

そもそも足湯ボランティアとは、阪神・淡路大震災の際に被災地KOBÉで始まり、全国に広まった活動です。タライにお湯を張って足をつけ、被災者の方の手に触れ、さすることにより様々な「つぶやき」が聞こえてきます。

この本会では、これまで足湯ボランティアをしたことがない方もいらっしゃいましたので、「つぶやき」を簡単に紹介してディスカッションを行いました。

ぜひ、下記にこれまで「つぶやき」を掲載しましたので、この一つ一つ「つぶやき」から見える背景や状況、課題、意味などを考えながら読んでみてください。





イベント案内

若者会議

・1月16日（木）18:00～
中央区文化センター



阪神・淡路大震災から30年。若い世代が改めて今の社会について感じていることを話しあい、問いかけます。

阪神・淡路大震災30年 防災・減災
チャリティーイベント
～tunagu～（ツナグ）

・1月12日（日）14：00～
神戸ラピスホール

CODEもブース出展し、「やさしや足湯隊」の活動などをパネル展示します。また、活動報告もさせていただきますので、ぜひお越しください。

【企画制作】
YUMEMIDORI 高田志麻
Discover Group 上條みずほ
ハッピーラッシュ 西村愛

編集後記

最近15時頃になると、小学生の「こーちゃん」が学校帰りによく事務所に遊びに来る。なんとも甘え上手な子で、誰かのパソコンを使ってゲームやアニメを見たり、カラスのモノマネをしたり、スタッフと憎まれ口をたたき合いながら去っていく。こーちゃんが事務局メンバーにつけるあだ名が秀逸で、「釜じい」「社長」「ヨッシー」「金髪」・・・（誰が誰かはご想像にお任せします）。いつの間にか、こーちゃんが「ヤッホー！」と来る時間が事務所の楽しみの一つである。

小学校2年生のこーちゃんはいつも学校で流行っているアニメや、覚えてたほやほやの言葉たち（最近はファック！とよく言っている）を教えてくれる。こーちゃんが成長するのを見届けたいねえ、とスタッフ同士で話しているが、事務所が移ったら会えなくなるのかと思うと少しさびしい。2年後「4年生になったらお菓子パーティをしよう！」という約束をしているが、その頃は事務所はどこにあるかな。

（島村）

ひょうご安全の日のつどい

・1月17日（金）
HAT神戸・なぎさ公園

阪神・淡路大震災から30年を迎えて、「震災を風化させない」をテーマに開催されます。CODEもブース出展し、パネル展示し、トルコ紅茶などを販売します。是非とも、立ち寄ってみてください。

CODE寺子屋セミナー

・2月22日（日）13：00～16：00
近畿ろうきん
肥後橋ビル12Fメインホール

近年、国内外で多発する気象災害による被害は途上国など脆弱な人たちを苦しめています。今後も頻発する可能性の高い気象災害の主要な要因である人為的活動の及ぼす影響について考えたいと思います。どなたでも、奮ってご参加ください。

スタッフ活動記録（2024/7/1～11/30）

2024/7/1	親和大学「国際ボランティア論」第12回「国際協力と若者」で講義（吉椿）
7/8	親和大学「国際ボランティア論」第13回「SDG sと災害」で講義（吉椿）
7/11	蒼合高校「総合的な探求の時間」で講義（吉椿） 関西NGO協議会理事会に出席（吉椿）
7/12-7/15	能登半島地震支援第12次足湯隊に同行（村井理事、南さん、山村）
7/12	能登半島地震インスタライブ（小池さん、吉椿）
7/17	トルコ支援ミーティング（村井理事、島村、山村、吉椿）
7/19	龍谷大学で講義（吉椿）
7/20	NGO ことはじめを開催（学生さん7名、村井理事、玉地さん、岩尾さん、南さん、島村、山村、吉椿）
7/25	グリコユニオン研修会で講演（吉椿） ウクライナ避難民勉強会（玉地さん、岩尾さん、西岡さん、那須さん、西受さん、田代さん、吉永さん、島村、山村、吉椿）
7/26-7/29	能登半島地震支援第13次足湯隊に同行（玉地さん、岩尾さん、山村、吉椿）
8/1-8/4	能登半島地震支援第14次足湯隊に同行（岩尾さん、吉椿）
8/6	NHK取材（吉椿）
8/7	読売新聞取材（吉椿）
8/9-8/12	第15次足湯（学生など10名）に同行（玉地さん、島村、山村）
8/14	「復興の灯」キャンドルナイトスカイランタンに参加（島村、山村）
8/16-8/19	能登半島地震支援第16次足湯隊に同行（村井理事、島村、山村、吉椿）
8/20	新規インターン安福さん来所
8/21	柳瀬さん来所
8/30	関西NGO協議会との交流会（玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村）
9/3-9/6	能登半島地震支援第18次足湯隊に同行（村井理事、玉地さん、島村、山村、吉椿）
9/6	鷹匠中学校「地域とつながる授業」で講演（吉椿） 関西NGO協議会常任理事会に出席（吉椿）
9/11	被災地NGO協働センターと能登支援ミーティング（村井理事、頼政さん、増島さん、南さん、島村、山村、吉椿）
9/13-9/16	能登半島地震支援第19次足湯に同行（村井理事、南さん）
9/18-9/22	お熊甲祭り（七尾市中島町）に参加（島村、山村、吉椿）
9/24	フードドライブ譲渡会&交流会に参加（山村）
9/26	CODE理事会
9/27-29	第1次能登水害ボランティアに同行（吉椿）
9/27	MOTTAINAIやさい便再開（村井）
9/30	関西NGO協議会理事会に出席（吉椿）
10/1	神戸新聞取材（吉椿）
10/4	鷹匠中学校「地域とつながる授業」の発表会に出席（吉椿）
10/4-6	第3次能登水害ボランティアに同行（吉椿、島村）
10/7	全国防災関係人口ミートアップで講演（吉椿）
10/11-14	第20次足湯ボランティアに同行（山村、島村）
10/14	映画「港に灯がともる」試写会に出席（ソフィアさん家族、吉椿）
10/17	関西NGO協議会ユース交流事業（玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村、吉椿）
10/19	神戸学生青年センター「食料環境セミナー」で講演（吉椿）
10/24	2024年度兵庫県生活協同組合大会（安田菜津紀さん）に出席（吉椿）
10/25-28	能登半島地震支援第21次足湯隊に同行（安福さん、吉椿）
10/29	文化放送「ゴールデンラジオ」取材（山村）
11/1-4	能登半島地震支援第22次足湯隊に同行（玉地さん、山村）
11/3	大阪で中国防災減災国際交流団へ講演（室崎代表理事、島村）
11/5	大阪大学で中国防災減災国際交流団へ講演（吉椿、島村）
11/5-7	中国防災減災国際交流団のアテンド（渥美教授、吉椿） 田中純一北陸学院大学教授が中国防災減災国際交流団へ講義（金沢）
11/8-10	日本災害復興学会2024度長岡大会に出席（頼政さん、南さん、三宅さん、島村、山村、吉椿）
11/12	震災30年若者会議（第1回）を開催（村井理事、玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村、吉椿）
11/15	神戸女学院大学松尾さん来所（吉椿） 小牧、加賀さん交流会（玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、吉椿）
11/16	ウクライナ料理会（島村、植田さん、松尾さん、山村、吉椿）
11/21	ラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO」（近畿ろうきん）に出演（吉椿） 震災30年若者会議振り返り（玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村、村井理事）
11/23-24	伝承合宿で講演（村井理事）、伝承合宿に参加（玉地さん、安福さん、山村、吉椿）
11/27	日本水防災普及センター「水防災セミナー」で講演（吉椿）
11/28	近畿ろうきん姫路支店「会員書記研修会」で講演（吉椿）
11/29	舞子高校「災害と人間」で講義（吉椿）
11/30	やさしや足湯隊交流会を開催（村井理事、頼政さん、南さん、玉地さん、岩尾さん、安福さん、島村、山村、吉椿）

※その他、毎週火曜日、神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」、「テーマ型実習C」で講義、週に二回、ウクライナ避難民支援の子守りボランティアを実施。月に一回、MOTTAINAI野菜便の配達





令和6年7月1日～11月30日
※ニュースレター掲載不要者 削除済み

【会費】

吉永孝代、山本弘、上野智彦、岸下正純、空野仁志、丹保立子、山本八州雄、田中一正、津川多津子、玉岡昇治、米谷ヒロカズ、高橋貞美、村上忠孝、池見宏子、満田里美、稲垣信一、宇田川エリ子、横田隆志、山崎水紀夫、兵頭晴喜、原田悦子、小西美子、阪井健二、中村大蔵、安江哲、鎌倉千俊、高橋智子、茂幾保代、砂川光、加藤進弘、武田かおり、山添令子、芹田希和子、金子久子、亘佐和子、中川和之、小林孝進、小竹貴介、塚田 耕平、

【ご寄付】

▶個人
ア行
安達明孝、伊藤幸子、石田奈津子、池見宏子、今中由美子、岩井スミコ、上角琢治、上野以久、上野智彦、大湊幹郎、

カ行
笠置りか、金子久子、鎌倉千俊、河村紀子、河本暁美、北後忠雄、木下愛子、木村卓美、木村周平、久井田浩子、古賀敬子、小林アイ子、小林孝信、米田幸人、米谷 啓和、小吹岳志

サ行
斉藤茂樹、斉藤敬子、澤登早苗、佐竹久仁子、塩谷誠、住野和子、空野仁志、

タ行
武田かおり、武田節子、武内旬子、高野史織、竹内千鶴、玉岡昇治、田中一正、丹保立子、津川多津子、土田亮、

ナ行
名越信次、中須雅治、中原喜代子、那須清三、仲村恵美子、中山圭子、中川和之

ハ行
秦智、藤原真紀、久安寿実、兵頭晴喜

マ行
松江直子、満田里美、三井さよ、村山京子、茂幾保代、森裕太、森本莉永、右田和子、

ヤ行、ラ行、ワ行
安田めぐみ、横山節子、山内正子、山添令子、山村弘美、山村昌彦、山本正紀、ヨコオヨシハル、吉野恵子、吉本優、亘佐和子、

▶団体
近畿労働金庫、特定非営利活動法人FMわいわい、日本マンマー自然災害支援グループ、神戸市立葺合高等学校、

【能登半島地震救援 募金】

能登半島地震救援活動への募金はCODEが共に活動している被災地NGO協働センターにおける救援活動に充てさせていただきます。直接、被災地NGO協働センターに振り込んでいただいた方は、協働センターから領収書を送らせていただきます。

その他、街頭募金活動等でも多くの方々からご協力頂いています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます！



—CODE Supporter's Voice—

ビュルデゥルチュン・アジャル・ボライさん（チャナッカレ大学4年生）より

アジャル（Acar）と申します。2023年のトルコ・シリア地震の時にCODEと一緒に活動させていただいたのは人生の一つの節目になりました。トルコは日本と同じく、災害が多い国です。子供の時から何回も激しく揺れたことがあります。今回2023年の地震も被害がとても多く、揺れがなかった私の出身地にまで影響を及ぼしました。それで自分の国やみんなのために、少なくとも自分のためにできることがないかを考えつつ、CODEと一緒に初めてボランティア活動を体験いたしました。

そんな遠い日本からトルコまで来てくれて、献身的にトルコの被災地で活動していた日本人に感謝の気持ちでいっぱいでした。今回留学で来日し、是非とも恩返ししたくて能登半島に参りました。足湯隊には4回参加し、毎回の思い出が胸に刻まれています。

どんなことがあろうが、一緒に頑張れば乗り越えられない問題がなく、悲しいことでも一緒に悲しんだほうがいいと、CODEのおかげでわかりました。



アジャルさん、トルコでも日本でもボランティアして下さり、ありがとうございました！

正会員・賛助会員各位

CODE海外災害援助市民センター
代表理事 室崎 益輝

2024年度年会費納入のお願い

平素より当団体の活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。
2024年度の会費納入について、下記ご案内のとおりお振込みくださいますようお願い申し上げます。
すでにお振り込みいただいた方は、行き違いをご容赦ください。
出費多い折かと存じますが、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

会 費：正会員（個人） 5,000円×1口以上

賛助会員（個人）2,000円×1口以上

納入方法：同封の振込用紙、もしくは下記口座への振込にて納入ください

ゆうちょ銀行

支店番号：〇九九店

店番：099

口座番号：0330579（当座）

口座名義：CODE（コード）

※口座名義をカタカナで指定されている場合は「コード」とご記入ください。

※通信欄に「正会員費」「賛助会員費」とご記入ください。

以 上

会員・寄付者各位

領収書送付の廃止について

平素より当団体の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
原点である阪神・淡路大震災から30年を迎えようとしています。
この度、ご寄付いただいた方へお送りしていた領収書に関して、複数の会員、寄付者の方々から、「現在の領収書は領収書は郵便代や紙などにはもったいない」、「メールなどで送ってくれた方が余計な費用がかからない」、「貴重な寄付を郵便代に使わないでほしい」などのお声をいただいております。よって、今後は領収書はメールなどに添付するデジタル化をしていきたいと思ひます。もちろん、これまで通りハガキの領収書をご希望の方は郵送させていただきます。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたしします。
今後も、支援の必要なところに皆様の想いを届けてまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたしします。

CODE海外災害援助市民センター

ご協力のお願い

みなさまからの応援があって、CODEは活動を継続できます。
お家から世界へ。CODEが支援のお気持ちを届けて、世界とあなたをつなぎます。

海外で...

国内で...

支援プロジェクト

活動報告
講演会、寺子屋

地域とのかかわり

ご寄付、入会
ボランティア活動

寄付して応援

活動を継続するためのご寄付です。
全体運営、特定の救援プロジェクトへのご寄付の指定も可能です。
25%を上限に管理運営費とさせていただきます。

ボランティアとして応援

事務所での作業や翻訳、自宅でも可能な作業などの
ボランティアを募集しています。
詳しくはCODE事務局までお問い合わせください！

知って・学んで応援

あなたの住んでいる地域で開催される講演会に
CODEスタッフを講師として派遣します。
テーマ・内容等、お気軽に事務局までご相談ください！

サポート会員になって応援

【正会員（総会での議決権あり）】
個人・学生 : 年会費 5,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 5,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費30,000円×1口以上

【賛助会員】
個人・学生 : 年会費 2,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 2,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費10,000円×1口以上

ともにCODEを創ってくださる方を
いつも募集しています

お振込み方法

■ ゆうちょ銀行
支店名：〇九九（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099
口座番号：0330579
■ 近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）
口座名義：CODE海外災害援助市民センター

【郵便振替】
加入者名：CODE
口座記号番号：00930-0-330579
【クレジットカード】
CODEのホームページより
<https://code-jp.org/donation/>
※通信欄に用途をご明記ください。(例「ウクライナ」「賛助会員」)



発行元 (特活) CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702

E-mail: info@code-jp.org
HP: <https://www.code-jp.org/>



Facebook



Instagram